

## 質的研究のデザイン

開講科目名	質的研究のデザイン
単位数	2 単位
授業形態	演習科目
開講言語	日本語
開講科目名(英)	Qualitative Study and Ethnography
時間割コード	3B2402
定員	20 人
担当教員	池田 光穂
対象所属・年次	全研究科大学院生のみ
開講区分・曜日・時間	春学期 月曜 6・7 限
開講場所	Zoom による遠隔授業
キーワード	質的研究、フィールドワーク、インタビュー、ナラティブ、エスノグラフィー、ELSI
授業の目的・概要	この授業は、質的研究のデザイン（計画立案）と実践、また最終的な成果物であるエスノグラフィー（民族誌）について考えます。研究のデザインを立案することは、その研究方法についての具体的な戦略を考えることにつながります。
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 質的方法の特性について理解し、量的方法との違いや、それぞれの利点と弱点を、他者（同僚の学生）に説明することができるようになる。</li> <li>2. さまざまなタイプの質的方法について、簡潔な定義を与えることができ、その方法を駆使すれば、どのようなアウトカムを得られるか、他者に説明することができるようになる。</li> <li>3. 質的な方法論とそれにもとづくエスノグラフィーの記法を学び、日常生活におけるさまざまな局面でコラボレーション・デザインし具体的な解決方法を提言することができる。</li> </ol>
授業計画	<p>第1回 質的研究とはなにか？：意味・歴史・特性・理論</p> <p>第2回 テキストを通じた解釈と理解：エスノグラフィーとエスノメソドロジー</p> <p>第3回 研究デザイン：プロセスのデザイン、アウトカムのデザイン</p> <p>第4回 フィールドワークとサンプリングの考え方</p> <p>第5回 インタビューとはなにか？：構造化／半構造化／非構造化インタビュー</p> <p>第6回 自由討論</p> <p>第7回 フォーカス・グループ・インタビューとディスカッション</p> <p>第8回 オーラル・データの収集と解析</p> <p>第9回 参与観察、エスノグラフィー（民族誌）、視聴覚資料、フィールドでの心理調査技法</p> <p>第10回 データのテキスト化とコーディング</p> <p>第11回 発語のシークエンスの分析法</p> <p>第12回 質的研究の評価と公開に関する問題、および研究倫理</p> <p>第13回 電子化・インターネット化・量的研究との関係・研究経営化の弊害</p> <p>第14回 まとめ：質的研究のデザインとはなにか？</p> <p>第15回 まとめ：エスノグラフィーと私たち</p>
授業外における学習	復習用の資料のダウンロードや、スケジュールの変更などは、ウェブページ【裏バス＝裏のシラバス】( <a href="https://goo.gl/u8L6vq">https://goo.gl/u8L6vq</a> ) などでお伝えします。
履修条件・受講条件	参加型の授業のために、毎回出席し、また相互に見知らぬ受講生と積極的にコラボレーションすること。
教科書・教材	フリック、ウヴェ（小田博志ほか訳）『質的研究入門』（春秋社、2011年）
参考文献	パーカー、イアン（ハッ塚一郎訳）『ラディカル質的心理学』（ナカニシヤ書店、2008年）
成績評価	受講生のポートフォリオ管理による平常点（60%）とレポート（40%）を基礎にして総合的に判断します。
特記事項	シラバスをみて、事前にテーマを想像したり、情報を入手したりしておく、学習意欲向上のインセンティブになります。復習用の資料のダウンロードや、スケジュールの変更などは、ウェブページ【質的研究のデザインとエスノグラフィー】などでお伝えします。